

ほんじつ ほん 本日のおすすめの本 (52)

がっこうとしょかん とうがい
～学校図書館だより号外～



ブックマ

令和3年2月19日

横浜市立本牧南小学校
学校司書 青木美佳

あお とり 『青い鳥』



重松 清 作 2007年初版 新潮社 貸し出し可(9の善棚)

はい ほん あたらしく入った本です！

今年度は新しい教科書になりました。今まで6年生の国語に入っていた「カレーライス」の作者である重松清さんの作品は、5年生で学習することになりました。

そのため、今の6年生は、重松清の作品を国語で学習しないで卒業になります。

重松清さんの作品は、小中学生の生活を実にリアルに描き、時に屈折した心の問題をたくさん取り上げています。

この「青い鳥」では、中学の臨時講師である村内先生という教師が登場します。映画化されたときは、阿部寛さんが主演をつとめました。

村内先生は、国語の先生ですが、うまくはなすことができません。吃音といって、言葉の最初がどうしてもつかえてしまうのです。もちろん、村内先生は子どもたちにばかにされます。でも、村内先生はやがて、子どもたちにとって忘れられない先生になっていきます。

言葉がうまくしゃべれなくても、教師を目指した村内先生の心の奥はどんなものだったのか、想像しながら読んでみましょう。

そして、なによりも、登場する小中学生の悩みの中に、自分の気持ちに近いものが必ずあると思います。すべての孤独な魂に、そっとよりそう感動作です。

村内先生は「たいせつなこと」しか言いません。授業よりも大切なことを教えてください。

ほんの中にでてる「草野心平」の詩は、図書館の中にもあります。

カエルの詩をとおして、命の大切さを伝えたかった村内先生の言葉の重みを感じながら、心の中に大きな悩みを抱えたときにこそ、読んでほしい一冊です。

卒業する6年生にぜひ！おすすめします。

